NIE実践報告

1．タイトル：新聞のヒミツをさぐろう

2．学校名

北九州市立藤木小学校

3．実践者名（代表者名）

緒方　洋

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　　25名

6．単元（本時の学習課題）名

見出しを考えよう

7．目標(狙い)

新聞にはどんなことが載っているのか、紙面の構成を知ることで、新聞を身近に感じることができるようにするとともに、各社の新聞見出しを見比べることで、見出しを付ける意図や工夫に気付くことができる。

8．評価の視点

「何がどうだ」に気を付けながら、自分なりに工夫して記事の内容に合った見出しを付けることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞のヒミツをさぐろう」[国語：３時間]
「新聞を作ろう」（教科書教材：光村図書）[国語：３時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１各社の新聞の１面を見比べ、紙面に必ず載せてあるものを探る。（１時間）
２探ったことを基に、紙面を構成しているものについて知る。（１時間）
３見出しの付け方の工夫を知り、自分の表現に生かす。（１時間）
４「新聞のヒミツをさぐろう」で学んだことを生かし、自分が調べたことを新聞に表わす。（３時間）
（留意点）
・数社の新聞を準備し、必ず１面に載っているものと、そうでないものに分けていくようにする。
・今後の学習での新聞作りに必要な、見出し・袖・リードなどを確かめていくようにする。
・新聞の見出しを見比べることで「何がどうなった」という表現になっていることに気がつくようにする。
・短冊に記事の内容を書き集め、伝えたい順位により割付を考えたり見出しの言葉を考えたりできるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

①文節が少ない。②「何」だけではなく「どうなった」までが一目で分かる。③「て、に、を、は」などの助詞が使われていない。④擬人法などを使って、読み手を引き付ける工夫をしているものもある。などの、見出しの付け方を生かして、一人一人が記事の内容に合った見出しを付けていた。

12．成果と課題

今回、新聞を取り立てて学習したことで、家庭学習においても家族と一緒に記事を読んで、親子で感想を交流し合い、感想をまとめるなどの取組みを行う姿が見られるようになってきた。保護者からも、食事中などの会話の中で、新聞記事を話題にすることが増えたと連絡をうけるようになった。